

平成29年12月15日

三浦市議会議長 岩野 匡史 様

都市厚生常任委員会

委員長 石橋むつみ

平成29年度 都市厚生常任委員会行政視察報告書

1. 視察日程

平成29年10月26日（木）、27日（金）

2. 視察地

北海道函館市及び亀田郡七飯町

3. 視察参加者

都市厚生常任委員会

委員長 石橋むつみ

副委員長 出口 眞琴

委員 下田 剛

委員 布川 照美

委員 寺田 一樹

委員 神田 眞弓

随 行 岡部 隆二（事務局）

4. 視察事項

◇ 北海道函館市

「ゴミの減量化・資源化」について

◇ 北海道亀田郡七飯町

「子育て支援」について

【10月26日(木)】

■北海道函館市の概要

- 面積 677.87km²
- 人口 263,101人 (H29年9月末現在)
- 世帯数 143,423世帯 (")
- 市制施行 大正11年8月1日
- 函館市は北海道の南西部、渡島半島の南端に位置し、三方を太平洋と津軽海峡に囲まれている。1859年(安政6)横浜、長崎とともに日本最初の国際貿易港として開かれて以来、近代日本の幕開けの中でいち早く外国文化に触れ、市民の中にも新進的な国際感覚が息づく歴史と文化を有する町として知られる。
- 大正11年に市制施行。平成11年に特例市に指定、平成16年に一市三町一村が合併し現在の函館市になり、平成17年には中核市に移行している。
- 「国際水産・海洋都市」「国際観光都市」としてのさらなる発展を目指している。
- 平成17年5月に着工された北海道新幹線が、昨年3月に新函館北斗駅まで開業となり、道路、港湾、空港なども含めた総合交通体系の拡充が望まれている。



「ごみの減量化・資源化」について

- ・平成28年度一般廃棄物の処理状況について
ごみ排出量の実績、原単位等の状況
- ・ごみ処理基本計画
基本方針、計画の数値目標

■視察の目的

観光、水産など、三浦市と共通の産業形態もあることなどから、ごみの減量・資源化や食品ロスをどう減らしているかなどについて学び、今後
に生かすこと。

■視察先対応者

函館市環境部環境推進課 中村直人課長ほか
函館市議会事務局議事調査課 白米 章主任主事

■視察訪問先

函館市日乃出清掃工場(日乃出クリーンセンター)

■事業概要

- 日乃出クリーンセンターが市の環境部庁舎。
担当者より、平成 28 年度の一般廃棄物の処理状況についての説明を聞く。
- 函館市のごみ収集は、住民の家の前などから直接収集する「路線収集」「戸別収集」方式（一部地域はステーション方式）。
- 平成 14 年度から「家庭ごみ処理の有料化」や「プラスチック容器包装」の分別収集を実施。
- 自転車や家電などの廃棄物で使えるものは、障害者作業所などの協力を得てリサイクルしている。
- 生ごみの水切り徹底と同時に、食品の廃棄をなくすこと（作り過ぎない、食べ残さない、捨てないで使い切る）を啓発。3010(サンマルイチマル)運動などにも取り組んでいる。
- 生ごみの堆肥作りを呼びかけている。「生ごみ堆肥づくり講習会」、「ダンボール箱利用の堆肥づくり出張講座」、「ダンボールコンポストメイト募集」など。
- 使用済小型家電のボックス回収を行い、「都市鉱山からつくるみんなの

- メダルプロジェクト」を呼びかけている。
- 古着の回収、事業所からの古紙の回収、集団資源回収などの取組がある。
 - 函館市ごみ減量・再資源化優良店等認定制度は、地球環境と限りある資源を守るため、包装の簡素化や買物袋持参などに取り組んでいる店舗や事業所に「環境にやさしい事業所」の認定証とステッカーを交付するもの。昨年12月で228店舗が認定されている。
 - 原単位（1人1日当たりのごみ総排出量）、家庭系原単位（家庭系の1人1日当たりのごみ総排出量）やリサイクル率等の状況をみて、排出抑制の目標値、再資源化の目標値、最終処分量の目標値を決めている。
 - はこだてエコフェスタ2016には6,000人が来場。
 - 清掃美化実践活動、ごみの散乱防止に関する啓発事業等は、市内の広汎な団体からなる「函館の街をきれいにする市民運動協議会」を組織し、環境推進課が事務局となって活動している。
 - 環境部発行の「平成29年度清掃事業概要」（130頁）には、清掃事業の組織、廃棄物処理施設、予算・原価計算、ごみ処理事業、し尿処理事業、環境美化およびリサイクル、産業廃棄物対策等の他、資料として、条例、規則、要綱、計画、業者一覧、沿革などが網羅されており、一冊で清掃事業の全体像がみえるものとなっている。



■主な質疑

Q ゴミの回収方法は。

A ステーション回収ではなく戸別回収で、家の前にゴミ袋を出しておくとそのまま来て持っていくという方法。収集する方は戸別に家を廻るので、ステーションよりも負担は大きい。函館は以前からこの方式をとっている。このため、ゴミの分別種目を多くできない。ステーションがあればその中でごみの区別ができるが、戸別は日ごとに〇〇の収集ということになるので、例えば同じ日にペットとビンということになると、回収する車も2台になるので、増やせない。

Q 家庭ゴミの袋は。

A ゴミ袋を購入していただく（40ℓが80円（1ℓあたり2円））。

Q ゴミの袋は何種類。

A 全部で5種類 5ℓ、10ℓ、20ℓ、30ℓ、40ℓ。

Q 収集体系は。

A ほぼ委託（9割）。

Q 回収回数は。

A 燃やせるゴミは週に2回 燃やせないゴミは月に2回、プラは週1回、かん・びん・ペットボトルは2週間に1回。

Q 細分化は。

A 現状は6分別（燃やせるごみ 燃やせないごみ プラスチック容器 かん・びん・ペット粗大ごみ 雑ごみ）

Q 分別は守られているか。

A 10年以上経っているので、ある程度。

Q 水分量はどうか。

A 水分量は多いが、多くても回収する。堆肥づくりや、生ゴミの水切り運動等、働きかけてはいるが、なかなか目に見えては減らない。

Q 平成2年度から行ってきた生ゴミ堆肥化容器の補助を24年度に打ち切った理由は。

A ある程度普及し補助対象者が減ってきていたことと、市の財政状況の部分で補助を終了した。それに代わるものとして、堆肥づくり勸奨のための講習会（ダンボール箱に特化した講習会）、電動式生ゴミ処理機の購入、土地が広ければコンポスト容器購入で堆肥化を続けるなどがある。また、そういう方々へのフォローを含め、講師をお願いして講習会を開催してきたが、ダンボールを使わない生ゴミ堆肥づくりという方については、市内に講師の先生がいないので、札幌から来ていただいていた。参加人数も減ってきていたので、昨年3月で終了した。今年からダンボール箱を利用した講習会を市内の先生をお願いしている。市で会場を決めると、高齢者が会場まで来られないこともあるので、出張講座という形でいろいろなグループで手分けをし、そこに講師を送り出す方式としている。

参加人数は横ばいから下がってきているが、リタイヤして家庭菜園をやる方が多いので、それなりに参加者はある。比較的女性の方に興味を持っていただいている。

Q ぼかし容器とは。

- A プラスチック製で漬物をつけるバケツのような容器。
- Q キューロについて。
- A 北海道は気候の関係で、屋外でというのが限られる。ダンボールは家の中、台所に置いて
ということができるが、同じようなことが北海道では勧めることができない。
- Q 集団資源回収、全部がそれに移行しているのか。
- A 各団体と市内の回収業者で相談して決めて、地域に周知するのも回収団体（主に町会）が
月1回～2回程度ということで、一升瓶 アルミ缶 新聞 雑誌 ダンボール 布の類も回
収していただいている。
- 回収団体は町会が多く、高齢化しているので、なかなか回収の品目を増やすのは大変。
資源回収については、全てが路線回収ではなく、過去からの経緯もあり、拠点回収も一部行
っている。なかなかそこまで出しに行けないという場合もある。
- 資源回収については、町会等をお願いしている部分もあるので、町会に奨励金、業者に謝
礼金を出している。
- A 資源回収について。
- Q 高齢化により、次の担い手が減ってきている。回収品目を増やすことはできない状況。中
にはその場所へもっていけないということもあり、その場合は有料ゴミとして出してもら
う、又は業者にと説明をしている。路線回収の場合は、通常、ゴミは家の前なので出せてい
るが、集団資源回収に関しては拠点を指定している。町会の会員も減っているし、地域によ
っては過疎化しているなどの影響もあり、なかなか集団回収に出せないという声もある。
- Q 高齢者はゴミの分別など、一人で住んでいると難しいと思うが、サポートは。
- A 市としては、特に施策はない。町会、介護関係の方に来ていただくことはあると思うが
市としてはない。
- Q 障害をお持ちで独居の方に対しては。
- A 収集員の方が家の中に入ってということは行っていない。
- Q 全体の予算の割合は。
- A 減量化資源化の割合は他都市に比べると少ない。
- Q 環境にやさしいお店の申請について。
- A こういう取り組みをしているという申請だけで、厳しい審査はない。
- Q 減量化により削減された金額は。
- A 塵芥処理費ということでいくと28年度は27年度と比較して約1億5,000万円。
- Q 都市鉱山からつくる！「みんなのメダル」プロジェクトの実績は。
- A 半年で1.2倍くらいに増えている。
- Q 食品ロスについて一般家庭に対する周知は。
- A 今年から3010運動を行っている。家庭に対しては、「買いすぎない・つくり過ぎない・捨て
ないで使い切る」といったことを食材使いきり料理教室で来た方に周知している。
- Q 食育の観点で、学校給食で食品ロスをなくすとか、子どもたちから家庭へ広めていく取り
組みについて。
- A 食の教育を行っているが、その中で、食べ残しをしないとか、小学生など小さな時から認

識してもらえればいいなと思う。

Q 自転車・家具の再生利用の流れについて。

A 粗大ゴミの扱いになる。環境部に連絡をもらい、日にちを合わせて取りに行く。市にリサイクルセンターがあり、そこに運び込まれ、再利用できるものは販売する。

Q 市の職員がリサイクルするのか。

A 障害者の団体に依頼している。販売は年に2回。リサイクルできる家具は余りないが、自転車は量が出てくるので、良い自転車があれば市民から応募も多い。

Q 保管場所・販売量は。

A 埋め立て処分場の一角。28年度の販売は、自転車が96台、家具が39点。

Q 売り上げは。

A 自転車は1台3,000円ぐらい。

Q 市長自らがごみの減量を訴えて、ということはあるか。

A 職員がフェスティバルの中で、生ゴミ堆肥の促進、水切りやアンケートをお願いしているが、市長がイベントにということはない。

Q クリーンセンターの償却の熱を利用したお風呂があると聞いたが。

A 利用は年間13,739人。1日平均44.6人。このあたりには公衆浴場がない。近隣の市営住宅の方が入っている。市民の割引はない。

Q 交通事業とは。

A 公営企業会計、路面電車を市で運営している。以前は市バスも運営していたが、バスは民間のバス会社もあるので、平成15年に民間と一緒にになった。路線が湯の川から函館山の麓の一つで、観光客には好評だが、市民には電車に乗る機会がほとんどないという方が多い。

【10月27日(金)】

■北海道亀田郡七飯町の概要

- 面積 216.75km²
- 人口 28,532人（平成29年3月）
- 世帯数 13,606世帯（〃）
- 町制施行 昭和32年1月1日
- 北海道渡島半島の南部に位置し、函館市に隣接している。北部は活火山秀峰駒ヶ岳と三つの沼のある大沼国定公園がある。道内では、温暖な気候と四季の区別がはっきり感じられる良好な自然環境に恵まれている。
- 明治2年、函館奉行榎本武揚がドイツ人ガルトネルにこの町の土地を貸したのをきっかけに、洋種農産物の栽培が始まったという。
- 観光資源の開発とともに、基幹産業として農業の近代化も図られ、平野部には水田、酪農、畑作地帯が広がっている。また函館市のベッドタウンでもあり、人口増加のまちといわれてきた。



「子育て支援」について

- ・七飯町の子育て支援事業
- ・母子保健事業、その他

■視察の目的

人口の減らない町と聞いたことや、きめ細かな配慮で作られている「子育てブック」などをネットで見、子育て世代が住みたいと思うような子育て支援施策があるのではないかとの思いから視察先と定めた。

■視察先対応者

七飯町議会	神埼和枝副議長
七飯町子育て健康支援課	関口順子課長
七飯町議会事務局	釣谷隆士局長

■視察訪問先

七飯町役場

■事業概要

- 担当者より、七飯町の現状、人口・社会増減・出生数の推移、教育施設及び保育施設の利用の現状についての説明を聞く。
- 主な地域子育て支援事業…妊婦健診、ブックスタートや絵本を配布。
- 学童保育に保育料補助や交通費補助あり。
- 子育て支援センター、保育所及び認定子ども園、幼稚園、小規模保育、母子健康手帳、赤ちゃんサロン、乳幼児健診、発達・発育相談などについて説明を聞く。
- 子ども医療費助成は0歳～18歳まで。
- 中学3年生が授業の一環として、重しの入ったエプロンをつけて、妊婦体験をしたり、実際に赤ちゃんふれあい、命の大切さや、親の愛情を実感するなどの「赤ちゃんふれあい教室」体験は大切な試み。



■主な質疑

Q 保育士不足ということで預かりきれしていない状況はあるか。

A 年度当初は、新3年生とか2年生の方、まだ上がったばかりなので心配でということが多くなる。限りがあるので、抽選により少し待っていただく方がいる。1年生を優先的に入れて、その後2年生、3年生を入れている。

Q 出産できる病院は。

A 七飯町には産婦人科だけがない。(函館市にある。)

Q グループホームは町内にあるのか。

A 何箇所か、障害者のグループホームがある。

Q 転入が多い理由は。

A 一つは、函館の隣町であること。また、七飯町は南西向きの斜面に市街地が構成されている。日当たりが良く、地盤も頑丈で災害に強い。雪も降るが、一番早く雪が解ける。気候的に同じであっても、ここの地域の方が住みやすいという特性がある。子育て世代に限らず、退職された世代も含めて転入されるが、気候的な部分で選択されることが多いのではないかと推測される。

子育て世代がここで生むのではなく、生んでから転入してくるケースがあるので、出生数が160ぐらいしかないのに、小学校に上がるときには200ぐらいになっている傾向がある。生ん

でから、また、家を建てて入ってくる。小学生の途中、親がそういう世代、気候の条件に合致するのではないかと思う。

Q ピロリ菌の検査について。

A 検査は尿検査の一時検査。学校での検診時に持ってきていただく。その際に親の同意書をつけていただく。陽性の方については医者と相談しながら治療となる。補助金は2回目の検査までは町で負担。その後は、治療になるが無料。

Q こども園を1号、2号、3号に区切っているのは保育料で分けているのか。

A 親の所得状況により振り分ける。2号については3歳以上。3号は3歳未満。1号と2号の区分については利用者のニーズにより振り分ける。

Q 病児保育について。

A 委託で、通園している子どもを預かっている。それ以外は預かっていない。登園した子の体調が悪くなった際に、お母さんが迎えにくるまで預かっている。すぐに仕事を抜けてくることのできないお母さんもいるので、重篤な病気でない限り預かっている。

Q 病気の子は。

A 前日までの申し込みで、急にというのは難しい。制限があり先着順。

Q 赤ちゃんふれあい教室について。

A 七飯町の中学3年生を対象に、妊婦の格好、おなかに水を入れた袋を付けて、どのくらいの重さかとか、妊婦の実体験から入り、赤ちゃんの人形を抱いたり、町内の親御さんに募集をかけて、実際にお母さんとお子さんが来てその子たちとのふれあいを行う。授業の一環として行っており、男女全員が対象。

Q 生徒の声は。

A 自分もそういうふうにして育てられたんだとか、親に対して考え方が変わったとか、率直な意見がある。一人っ子が多く、赤ちゃんを身近にみるという現実が少ないので、結構感動するという声を聞く。

Q 住民課と教育委員会との連携について。

A 保健師が関わっているケースがある。お客さんがあちらこちらにというよりも、保健師が割りとずっと一緒について回っている。住民課にも保健師が行ったりする。検診等の際に、相談が保健師にあり、そこから始まっていく。児童手当は別で、事務的なものなので時期になったら行うということで余り問題はないと考えている。保健師が始めから子どもさんと関わっているケースがあるので慣れている。子育て支援に6名、その他福祉関係に4名の保健師がいる。

Q 小児科について。

A 北斗市との間で、当番で必ず小児科が開いている組み方をしている。順番を決めるときに小児科が日曜に開いているところがないということがないよう広域で調整している。

Q 子育てパパについて。

A 月1回、第3日曜に開催している。1回に20組程度。2時間程度、凧作りやそうめん流しなどを行っている。運動会・餅つきなど数に制限をかけるときは申し込み制になることもある。10年ちょっとやっているなので、浸透されてきている。お母さんがリフレッシュする時に利用していただく。お父さんと子どものふれあいを見ていると、とても良い関係が築かれているよう

に感じる。

Q 小児医療費の助成について。

A 七飯町は18歳。隣の北斗市も18歳。函館市は18歳まではやっていない。

Q 小児医療について、北海道が支えているのはどこまで。

A 小学校6年生まで。都道府県の中では昔から北海道は手厚い。

Q 七飯町は転入者が、隣の函館市は転出者が増えているが。

A 七飯の高校は1校。七飯の子どもが行くのかというとそうではなく、函館の高校へ進学する。そこから先、大学はというと札幌や東京へ行ってしまふ。戻ってきて勤めるところ、大きな企業がないのがネック。今、北海道新幹線が函館まで開業して、七飯町内に車両基地ができた。現在はフル稼働してなくて、札幌まで延伸して初めてフル稼働になるという意味ではまだまだ400名程度の雇用しかない。それがフル稼働して700人、800人の雇用が生まれるという部分では、一回出た子どもたちが戻って来るといふ環境の一要素になるのではないかと期待する。実際にはそういうふうにならないと、都市から人口を引っ張ってくる、プラス出た子どもたちが戻って来るといふ仕組みがない限り、一人勝ちみたいに見えるが、結局大きな目で見ると同じパイを取り合っているだけでプラスにはなっていないと思う。

Q 学童保育。交通費の補助について。

A 大沼地区には3つの小学校があり、その中の一つの学校の近くで学童保育を行っている。2つの学校の子どもがタクシーを利用し学童に行く際、タクシーを使うときに補助を行っている。

行政視察の成果について

行政視察を終えて

ごみの減量・資源化は、どこの自治体にとっても永遠の課題です。

函館市でも、生ごみの水切り徹底、資源化のために分別を進めるなど、三浦と同じような苦労を重ねておられると感じました。

生ごみの堆肥化にも、市民と一緒に取り組んでおりましたが、三浦でモニター制度2年目の「キエーロ」は、函館では気温や積雪の関係で難しいのでしょうか。

戸別収集です…と伺ったときには、その収集の様子を朝にでも見学しておけばよかった、と悔やみました。

店舗や事業所の「環境にやさしい事業所」認定制度は、そんなに厳密な審査ではないのですよ、と言っておられました。消費者も事業者も意識啓発になるし、ステッカーが町に増えれば励みにもなる、と思いました。

当日頂いた「29年度清掃事業概要」は、市民がこのまちに暮らして排出するもののほとんどを網羅していて、処理コストなどもそれぞれに調べることができ、全体像も考えられる…参考にしてみたい力作です。

ごみ処理の基本計画の基本方針の1つに、「ごみを出さないライフスタイルの推進」とあり、内容は①環境啓発の推進、②環境教育の充実、③環境美化の実践…とありました。当り前の事のようにですが、しっかり位置づけて基本方針にあげていることに注目しています。

7時間以上かけてやっとたどり着いた函館市日乃出クリーンセンター。環境部の中村様、阿部様、皆様、丁寧な説明とご案内をありがとうございました。

大切な資料を参考に、今後に生かして生きたいと思っています。

七飯町は、函館のベッドタウンとして、また、りんごなどの西洋式果樹栽培、酪農なども盛ん、新幹線の延伸で車両基地の予定もある…と、今後の町の発展、人口増加などが予測できそうでした。子育てもいろいろな施策を伺いましたが、面積も広いだけに三浦では想像できない苦労もありそうです。

保育では、通常保育の他に、一時保育や病児保育にも取り組んでいるとのことでした。どの場面でも、医師と保健師や保育士との連携がしっかりされているようで、市民は心強いでしょう。

委員長 石橋むつみ



町役場、文化センター、子育て支援センター、病児保育所「はるっこ」…など、緑の環境のなかに広々と整備されているように感じました。機会があれば、実際にクリニックや、「はるっこ」をいつか、見学したいと思っています。

副議長の神崎様、子育て健康支援課長の関口様、職員の皆様ありがとうございました。

議会事務局の釣谷様には、子育て支援の担当課経験をお持ちとのことであって、丁寧な説明と御案内を頂き本当に、感謝しています。

行政視察報告

副委員長 出口 眞琴

視察1日目の函館市は、北海道では札幌市、旭川市に次ぐ北海道第三の人口約27万人を有する中核市です。

観光都市として第三次産業の比重が高い産業構造となっており、商業に関しては卸売業が販売額を占める割合が高いのが特徴となっています。また、イカなどの水産資源を利用した食料品製造業と流通が発達した地域にもなっています。



函館市では、ごみ焼却施設「日乃出クリーンセンター」において、ごみの減量化・資源化について各施策と効果・食品ロス削減に向けた取り組みについて環境部推進課長よりお話を伺いました。

函館市では、平成14年度から「家庭ごみ処理の有料化」および「プラスチック容器包装」の分別収集などの施策を実施しており、有料化前と比べるとごみ排出量は大幅に減量化されているとのことで、これは市民の理解と協力がなければ出来なかった事だと思えます。

また、平成17年度から廃プラスチック、繊維類、ゴム、皮革類を「燃やせるごみ」としたことにより、それ以前と比べると「燃やせないごみ」の排出量が大きく減少し、埋立処分量も減少しています。

「ダンボール箱を利用した生ごみ堆肥づくり」を推進しており、函館市と町会、事業所、学校、各種団体および関係団体で構成する「函館の街をきれいにする市民運動協議会」による講習会や出張講座が各所で開催されています。「函館の街をきれいにする市民運動協議会」は函館市内の476団体が登録しており、官民協働がごみの減量化に大きく関わっている事が伺えます。

本市と同じく観光・グルメが有名な街であることから、「食品ロス削減」の取り組みとして飲食店等の事業所に向け「30・10運動」推進や「函館ごみ減量・再資源化優良店等認定制度」を実施しており、認定された店舗・事業所には優良店認定書

と優良店ステッカーが交付されます。

また、家庭ごみを減らす「食材使い切り料理教室」の取り組みや、携帯電話や小型家電のリサイクルを行う「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の取り組みについて説明を受けました。

函館市のごみ減量化・資源化の取り組みについては、有料化の実施が効果を上げており、市民の理解を得られた事や市民がごみの減量化・資源化に協力的である事が称賛されます。

今後は函館市長のより一層の減量化・資源化へ取り組みに注目致します。

2日目は北海道亀田郡七飯町の子育て支援施策の取り組み及び効果についての視察です。

七飯町は北海道渡島半島の南部に位置し、北海道の表玄関函館市から約16kmの距離にあり、人口は28,532人の町です。基幹産業である農業は、水稲をはじめ、ダイコン、ネギ、ニンジンなどの畑作、リンゴ、ブドウなどの果樹と生産品目が多岐に渡り、大沼地区では酪農、畜産も行われています。

去年は転入者が転出者を138人上回る転入超過となっていますが、理由としては新幹線の車両基地や大沼の新ホテル建設による転入が挙げられ、町としては新幹線関連の動きは落ち着いてきたので企業誘致・子育て施策に力を入れていくとのことでした。

七飯町役場での研修では、神崎和枝副議長の歓迎の挨拶の後、七飯町民生部子育て健康支援課長より子育て支援について説明を頂きました。

はじめに、七飯町の教育施設及び保育所（園）・認定子ども園についてです。

教育施設は私立幼稚園2園、認定こども園（幼稚園分）1園、保育所（園）は認可保育所が6箇所と小規模保育施設が1箇所あり、その他認可外保育所は事業所内保育所・託児所が3園あります。

2園の幼稚園利用者は減少傾向にあり、認可保育所は1、2歳児が増加傾向にあります。

認定こども園（保育所分）の利用者は1、2歳、3歳児が定員を上回る利用となっています。

やはり低年齢児を中心に保育需要が高まっている状況との説明でした。

また、子育て支援の一環として学童保育クラブ保育料減免補助金を創設し、保護者の負担を軽減するため入所児童1名につき月額2,000円の補助を行っています。

七飯町の子育て支援センターは町立大中山保育所内と社会福祉法人聖樹の杜七飯ほんちょう保育園内に併設されています。遊び、協働、学習を特徴とした運営は、友達作りや子育て相談に広く利用され、地域の親子交流が盛んとの事でした。

町の子育てサロンでは、子育て中の父親と子供が毎月1回、外遊びや工作などをして触れ合う「あそんで！SUNDAY パパ」が開設10年を迎え、積極的に子育てをす

る男性に「育メン」を応援しています。

子供の医療費助成制度については、入院・通院は18歳になる年度末までの間にある子どもに保険対象分医療費の自己負担額を助成しています。

18歳までの医療費助成については子育てされている方には大変に有難い支援制度であると思います。

子育てや各種手続きについての情報をわかりやすくまとめた「子育てブック」の配布や、子育てサポート事業として親子の絵本読み聞かせ、0歳と2歳児への絵本の配布がされています。

病児保育事業は病児対応型と体調不良児対応型で実施され、病気のため保護者の勤務等の都合により家庭で保育を行うことが困難な児童の受け入れ対応を実施しています。

七飯町は北海道新幹線が開業し、新函館北斗駅からも近く、公共交通機関が充実しているエリアです。函館市とも隣接しており、買い物・医療・娯楽等、日常生活に大きな不便を感じることはなく、札幌方面や本州方面とのアクセスにも便利であること、この利便性を生かして今後は子育て世代を支える施策を充実させる事により住みやすい町になるよう期待しています。

都市厚生常任委員会視察について

下田 剛

函館市ゴミの減量化・資源化について

函館市ではH14年度からゴミの回収を有料化しており、ゴミ自体は減少傾向から近年では横ばいで、魚貝類等生ゴミ等が多いという話でした。

有料袋の料金は、400で80円ということで0=2円。

また、函館市は本市に比べると高齢化率は高くはありませんが、33%となっています。

うらやましく思えたのは、ゴミステーションの回収ではなく、戸別回収というところでした。

また、30・10運動や「買い過ぎない、作り過ぎない、使いきる」といった宴会等に啓発出来ると良い取り組みがあります。手軽に取り組めて、大きな啓発効果があると感じた取り組みは「函館市ゴミ減量・再資源優良店等認定制度」です。認定証とステッカーが交付されますが、なんと申請書は自己申告制ということでした。自己申告であれば、少し甘い申告になりそうですが、お客さんにもゴミ減量等の啓発が出来ます。

障がい者施設等との連携により、自転車等のリサイクルをしているのも良い取り組みだと感じました。



本市での取り組みや首長の関心等の意見交換等もさせて頂き、有意義な時間を過ごしました。

七飯町子育て支援について

昨年も同様の視察に他都市に行きましたが、子育て支援における良い・悪い、子育てし易い・しにくい判断は、ハンドブック等の資料の見やすさではないかと思えます。見やすくコンパクトであれば、それを一つ二つ持ち帰るだけで検討は容易になります。チラシを数枚持ち帰らなければならない場合は、目を通すのにも手間となってしまいます。見やすいハンドブックを作成することは、割とアピール材料になるのではと、昨年・今年の視察で感じました。

保育士の不足についてはどの都市も課題となっているようです。市として保育士不足を解消する手立てを考える必要があるのは本市も同様です。

救急体制では、小児科の病院がどこも休みにならないような体制をとっているとのことでした。

また、保育料を国基準より町独自で10%引き下げています。

ほのぼのとしたのは、「赤ちゃんふれあい教室」と「あそんで！SUNDAY」です。赤ちゃんふれあい教室は、授業の一環として中学生が赤ちゃんとふれあい、命の大切さや親の愛情を実感する機会を体験するものです。何もないところから始めるには、様々な方面での協力体制が必要ですが、自分の中では、本市でも同様に取り組みたいと考えるものでした。あそんで！SUNDAYとは、子育て中の父親と子供が毎月一回外遊びや工作等をしてふれあう町の子育てサロンです。開設して12年が経ち、今では毎回20組ほどの親子が参加されているとのことでした。開催することは割とハードルが低く、本市でも始められそうなことですが、本市ならではの外遊びが必要とも思いました。

子育てをしたいと思われ選択されるようになるには、まずは成功している自治体の取り組みを真似て、三浦市独自のものを織り交ぜることが大事だと思います。

二日間の視察により、財政が依然として厳しい三浦市にとって、その財政の中で行なえることや投資をしなければならないことも提案出来るように、常に周りの取り組みにアンテナを張らなければと、改めて感じた視察となりました。

行政視察について

函館市に、「ごみの減量・資源化対策」の視察に行つてまいりました。函館は北海道の南西部渡島半島の南端にあります。函館市の一番くびれた位置に市役所があり、そのほど近く、日乃出町にある環境部クリーンセンターに伺い、担当の方から説明をいただきました。

印象に残ったのは今年から始めたと言う「3010運動」。食品ロスを減らすため、宴会などで乾杯後の30分間とお開き前の10分間は、席についてお料理を楽しみましょうという取組です。全国でも盛んに提唱されています。手をかけた美味しい料理を残さず食べることで、作る人も食べる人も片付ける人も、みんなが笑顔になれる運動というか、シンプルかつ大事な心がけで誰にでも出来る素晴らしい発想と感じました。

家庭に向けては、「買いすぎない、作り過ぎない、捨てないで使い切る」との呼びかけを「食材使いきり料理教室」などで繰り返ししているとのこと、感心しながら聞きました。

三浦市でも「ごみダイエット大作戦」のアクションプログラムで「食べきり、水切り、効果はつきり」を提唱しています。食品廃棄物の削減のために、市民や飲食店の皆さんに呼びかけているものです。ごみ減量にまじめに取り組む必要を、一主婦として、私も心に刻みたいと痛切に感じました。

布川 照美



行政視察報告

ごみの減量化・資源化について

函館市では、ごみの減量化・資源化に向けた取り組みについてお話を伺いました。

資源物の回収は、集団回収を実施しています。本市でも集団回収を一部行っていますが、函館市の場合は、集団回収以外での資源物の排出方法がないということでした。そのため、集団回収の拠点まで持っていくことが困難な人に対するフォローが課題であるとのことでした。

ごみの減量化・資源化については、本市も力を入れているため、取り組みに大きな違いは見られませんでした。自転車の再生利用に取り組んでいるという点が気になりました。廉価な価格で販売し、リユースされています。本市でも今後

寺田 一樹



取り組んでいけたら…と思いました。

また、ごみの減量化に向け、常にアンテナを高くしている様子が伺え、絶え間なく研究している姿勢には頭の下がる思いでした。

子育て支援について

七飯町では、子育て支援についてお話を伺いました。

病児保育事業が実施されており、平成 28 年度は 252 人が利用したとのことでした。

また、学童保育は町立と民間がありますが、民間の保育料が高くなっていることから運営者に対し補助金を交付しています。さらに、学区内に学童がない家庭には、交通費の半額を補助する制度を設けています。

その他、18 歳まで医療費の無償化を行うなど魅力的な取組を様々展開しています。

その結果、小学校入学段階には、その年代の当時の出生数を上回るほどの子供が七飯町で暮らしているとのことでした。

子育て支援だけが転入者増の理由にはなりません、本市としても、今後展開されるファミリーサポートセンターや病児保育事業をはじめとした多種多様な子育て支援策の充実に努めていく必要があると感じました。

行政視察について

神田 眞弓

10 月 26 日 函館市 ゴミの減量化・資源化について

寒いと思っていましたが、快晴でぽかぽかと、とても気持ちの良い天気の中、函館市の日之出クリーンセンターに伺いました。

全国的に生ゴミの水分量は課題となっていますが、本市と同様、水切りのポイントやグッズの紹介などで広く啓発し、又、食品ロス等についても積極的にエコフェスタ等において、残り物等でもう一品作ること等を紹介しています。

また、本市と同様、高齢化が進む中、ゴミの収集は家の前にて直接収集する「路線収集」という方式で有料袋に入れてゴミを集めています。

本市でもゴミステーションにいけない人たちが今後増加していくことが考えられます。収集方法・料金等についても課題となると思いますので、今後検討していく必要があると感じました。



10 月 27 日 七飯町 子育て支援について

七飯町は函館市に近く、宅地開発も進み、ベッドタウンとして人口が増加、それに伴い子育て世代の方たちも多くなり様々な施策を行っていました。

印象に残っていることは、“あそんで SUNDAY パパ”。毎月 1 回、日曜日に、日頃お子さんとコミュニケーションがなかなかとれないお父さんたち。そうしたコミュニケーション作りや、お母さんには少しの間子育てから離れてもらってリフレッシュの機会が作れるよう、お父さんとお子さんがいろいろな事（おもちゃ作り・炭焼きパン・流しそば作り・おもちつきなど）を体験しながら楽しく遊ぶお手伝いをしていました。

本市も子育て施策では決して他市にひけをとりませんが、良い事業はやってみると良いと思いました。